

県立高、3減の30校

平城、西の京、登美ヶ丘

2校に再編

榛生昇陽、大宇陀 吉野、大淀 ともに統合

県教育委員会は8日、少子化による生徒数の減少を見据えた、県立高校の統廃合を含む学校・学科の適正化実施計画案を発表した。奈良市の平城、西の京、登美ヶ丘の3高校を2校にするほか、宇陀市の榛生昇陽高校と大宇陀高校、吉野町の吉野高校と大淀町の大淀高校を、それぞれ1校に統合する。県立高校数は33校から3減の30校になる。また奈良高校は平城高校の跡地（奈良市朱雀2）に移転する。同計画案は18日に開会する6月定例県議会に提出される。

【3面に関連記事】

奈良は平城跡地に移転

県教委計画案

計画案によると平城、西の京、登美ヶ丘の3校は「国際高」の2校に再編される。町（市）の場所に設置、国際ハカロー

ア（IB）の認定を目指す。国際高校は平成32年度の開校予定で、34年度からは県立中学の併設も構想。中高一貫での外国語教育などに取り組む。

一方、県立大学付属高校は現在の西の京高校（奈良市大桑西3）の場所に置く。33年度の開校で地域づくりに関

する学科を設置。県立大学との連携を図る。現在の平城高校の跡地には、34年度から耐震化工事が困難な奈良高校が移転する。

平城高校と登美ヶ丘高校は来年度に募集を止め、西の京高校は翌32年度に募集を停止する。大淀高校と吉野高校は統合して「奈良南高校（仮称）」にする。両校の校舎を残し、建築や森林管理分野の総合学科を設置する。榛生昇陽高校と大宇陀高校も統合。「宇陀高校（仮称）」とし、2校の校舎を生かして保育や福祉、介護福祉士の受験資格などを取得できるプログラムを盛り込む。

統廃合以外では、奈良朱雀高校（奈良市柏木町）の校名を「奈良商工高校（仮称）」に変更。商業科と工業科が協働して課題を研究する。高田高校（同市白毫寺）は「芸術高校（仮称）」、奈良情報商業（桜井市河西）は「商業高校（同）」に校名を変え、芸術や生

きる力を育む起業家教育に力を入れる。いずれも33年度から。また五條高校（五條市）の定時制は来年度に募集を停止、同定時制を廃止する。

計画案は同日、奈良市内で開かれた30年度の第1回県総合教育会議に報告された。この中で荒井正吾知事は「われわれ（知事部局など）が政治介入せず、（県教委が）精根込めて計画案を練られた。敬意を表したい」と一定の評価を示した。吉田育弘教育長は会見で「時代の変化に対応するため、この時期に再編を考えなければならなかった。ダイナミックな計画案となった。説明責任を果たしたい」と話していた。ただ同計画案に盛り込まれた統廃合や校名変更には反発する県議もあり、6月定例会で議論を呼びそうだ。